



R5 三郷市立彦成小学校 体力向上グランドデザイン



今年度「気力あふれる」とは…「運動が大好き」であり、「目標や困難に立ち向かう」姿のことと捉える

気力あふれる児童の育成

～運動好きを増やし、目標や困難に立ち向かう力を育む実践を通して～



数値目標1 新体力テスト

- 総合評価 A+B+C:95% A+B:86%
 - 8項目中5項目以上の第一目標達成児童の割合60%以上
- 【実態】1. A+B+C:R4 92.4% A+B:R4 70.1% 2. R4 46.3%

数値目標2 運動好き

- 100% (体育好き100%+運動と外遊び好き100%)
- 【実態】 R2 体育好き 94%・運動と外遊び好き 93%
- R4 体育好き 96%・運動と外遊び好き 94%

数値目標3 朝ごはん接種率

- 93%以上
- 【実態】 R3 85%
- R4 86%

研究の仮説

「価値あるざっくばらんな話し合い活動」を取り入れた授業を行えば、多様な資質・能力が育まれ、運動大好きな児童を育成することができるであろう。

教科外での体育的活動を充実させれば、成功体験を積み重ねられ、目標や困難に立ち向かう児童を育成することができるであろう。

具体的な手立て

「価値あるざっくばらんな関わり合い活動」

●体育科における「価値あるざっくばらんな関わり合い活動」

- ①友達と試技の結果やできばえを伝え合いながら学習する。
【協働的な学び(仲間との関わり合い、高め合い)】

- ②自分の技能段階に合ったレベルを選択(自己調整)しながら学習する。
【個別最適な学び(自己内対話)】

+

●ざっくばらん関わり合いを生み出すために・・・

- 「児童が必要感をもつ」教師の働きかけ
 - ・学びのつながりを意識した導入(ゴールを見据えたストーリー性のある単元計画)
 - ・ねらいにせまる発問「知・技」「思・判・表」「態」
 - ・効果的な声かけ(「レベルの調整を促す」「運動のポイントを気付かせる」「具体の賞賛」)
- 「児童が必要感をもつ」教材・教具の工夫
 - ・友達と試技の結果やできばえを伝えあいながら学習できる
 - ・自分の技能段階に合ったレベルを選択(自己調整)しながら学習できる

「教科外での基盤となる心と体づくり」

○教科外体育の充実

- ・なりスポ(業前運動)の実施・・・全校での体育。週に4回、7種類の運動を行う。
- ・業間運動の質の向上・・・運動の生活化を図る。
- ・運動委員主体の活動・・・低学年に運動を教え運動の素地を育む。
- ・年間チャレンジの実施・・・学年ごとに系統性をもって年間取り組む。

○家庭・地域との連携

- ・元気もりもりプロジェクトの更なる推進・・・朝食接種率や睡眠時間、むし歯の治療率等について、家庭の協力を得ながら向上させる。
- ・体育通信の発行・・・各種アンケート結果や年間チャレンジなどを家庭に周知する。
- ・新!体力アップカードの作成・・・児童の記録や伸びを記入するカードを作成し、保護者に周知するとともに児童の更なる成長を促進する。
- ・放課後彦成クラブの充実・・・地域にご協力をいただき、放課後も運動に親しむ環境をつくる。

○職員研修「不易を大切に、流行に敏感に」

- ・月例研修の充実・・・若手教員指導力向上と体育の研究の継承をする。
- ・運動に親しむ環境整備・・・フリーボール開放し、ボールを投げる環境をつくる。
- ・「運動領域ごとの身に付けるべき知識・技能系統表」の活用・・・各学年で確実に身に付ける技能を明確化し職員に周知する。
- ・リズム縄跳び「彦成なわとび」と「雨の日体操(仮)」の作成